



「最近、街の表情がどんどん変わっていった」「それで記事ができないかな?」「ああそれなら、同じ場所のいまと昔を写真で比較すれば」——編集局内のそんなやり取りからこの企画は生まれました。左の写真はいまの様子。対して右の写真は、古いものでも5年前に同じ場所を撮影した写真です。たかが5年なのに、この変わりよう! ベイタウンの玄関口にあたる公園東の街やセントラルパークのあたりは、こうしてみるとあっという間にできてしまったんですね。【茂木】

街の表情が **どんどん** 変わる!

①ベイタウンの玄関口にあたる公園東の街の一角。でも、マリーンドッキができてからは通りかかるとも少なくなりました②まだ空き地だったころ、ある日こつ然と、こんな看板が。だれ向けだったんでしょう③これも公園東の街。マリーンドッキの下から見たところ④打瀬小学校・中学校の子供が仮囲いに描いた壁画。以降、海滨打瀬小学校やコミュニティコアの建設現場でも登場することに。でもこのときは、海滨小やコアのときのような仮囲い板への印刷ではなく、実際に子供がペンキで描きました⑤言わずと知れたリンクスやバーミヤンの入る建物。「幕張ベイタウンプラザ」という名前がちゃんとあるんですね⑥ここには、どういう事情からかセブンイレブンのこんな看板が一時期ありました。あれはなんだったんでしょうか⑦打瀬小学校脇の公園から見たセントラルパーク。あれよあれよという間にできた気がします⑧シータワの建設工事はまだこれからという時期。建設中のウエスト各棟がよく見渡せました。



エコパーク 泥と水生植物を入れてビオトープに



▲6月10日開催のイベントで池の一方に稲を植えたあとに記念撮影。エコパーク現地での作業を前に、この日は10時から親子合わせて総勢24人で花見川沿いのサイクリングロードを上流に向かい、用水路から泥や水生植物を採ってきました。泥の中には体長2cmほどのザリガニの子供がたくさんいて、みんなびっくり。

▶6月2日には、ベイトウンまつりのときに続く2回目の「どろだんご大会」を開きました。好天に恵まれたせいか、ピーク時で60人前後もの子供が参加。だんご作りに励む姿もみられましたが、泥だらけになって遊ぶ姿が印象に残りました。恐る恐る池に足を踏み入っていた女の子も、そのうちなんのためらいもなく泥まみれに。

「幕張ベイトウンにエコパークをつくる会」では6月10日、通称ふたご池の一方に花見川近くの用水路から採ってきた泥や水生植物を入れて、ビオトープとして育てたり、他方には稲を植えて、季節に応じた水や土とのふれあいを楽しむ区域として整備するイベントを開きました。これは、6月2日に開いた「第2回どろだんご大会」後の会合で決めた整備方針に沿ったもの。ビオトープとして整備する池は、生態系がある程度できあがるまで立ち入りを禁じることにしました。同会では、魚やザリガニなど飼っていた生き物を勝手に放さないよう呼びかけています。【茂木】



ベイトウン自治連合会の新会長に須田善勝さん

6月に連合会会長に就任した8番街の須田善勝さんに、ベイトウンの抱える課題および連合会のこの1年の活動方針についてお話をうかがいました。



これまで単位自治会の副会長を務めてきた須田さんですが、「もう少し連合会の活動を強化していかなくては」と考え、また周りにも表明していたところ、「それなら、須田さんが会長をやってみれば」ということに。奥さんのボランティア活動をサポートしながら悠々自適の暮らしを決め込んでいた矢先に、大役を背負込んでしまったというのが本音のようだ。

しかし、全く知らない街にやってきてこの街で友だちを作って一生を過ごそうと思っている須田さんにとって、学校以外に公共施設のないベイトウンが果たして暮らしやすい街なのかという疑問は日に日に大きくなっていった。特に、4人に1人が15歳未満という街に、保育園や幼稚園といった児童施設がなく、また、女性と子ども、高齢者しかいない昼間の災害に備えた防災施設（非常用井戸及び備蓄倉庫）もない現状をどうにかしたい！

そんな思いを原動力に、13年度の連合会は①連合会組織活動の強化、②公共施設の拡充をテーマに「交通」「防災」「防犯」の3点にしばった活動を推進していく方針だ。具体的には以下の通り。

1. 連合会組織活動の強化

【担当副会長制の導入（4副会長）】

これまでの副会長のほかに「交通」「防災」「防犯」の担当副会長をそれぞれ置き、連合会の名刺を使って連合会の代表として活動を行う。分担することで政策の継続性をもたせ、個人プレーに陥らない組織力アップがねらい。

【防災体制の見直し強化】

現在、打瀬地区には避難場所が2箇所あるだけで、非常用井戸と備蓄倉庫がない。ということは、避難してきても自分たちで持ってこない限り、水も食料もないということだ。この改善を図る。

ちなみに人口6826人の幕張西地区では、避難場所6箇所、非常用井戸1箇所、備蓄倉庫1箇所。

【防犯体制の早期確立】

変質者が出没するなど防犯面で子どもたちを守る施策が必要になっている。常設委員会を設け、保護者や地域住民、警察、学校、青少年育成委員会が連携を密にして組織的に活動を行う。

【未加入番街への加入促進】

現在、自治会の加入率は50%を切るのが現状である。自治会及び連合会の活動をよく知ってもらうとともに成果をあげ、「入らなきゃ損だ!」と思わせるだけの実績をもつ自治会・連合会をめざす。

2. 公的施設の整備充実

①防災設備（非常用井戸、備蓄倉庫）の年度内設置を市長に文書で働きかける。

②コミュニティコア内に「連合会常設事務所」を確保する。

③中長期的に、保育園・幼稚園をはじめとした公共施設の整備を推進する。

以上が13年度の活動方針ですが、特色としては昼間の街で暮らす女性と子ども、高齢者の視点からまちづくりを考えようという姿勢と、立ち遅れている公共施設の整備をはじめ、納税者として積極的に市に働きかけて改善を求める姿勢を強く感じました。

実際、女性の自治会役員の割合は連合会平均で25%に止まっており、実質上ベイトウンの生活の担い手である女性の積極的な参加を呼びかけたいとのこと。月次定例会議はオープン参加大歓迎!!なので、役員ではなくても聞きたいこと、言いたいことを持っていてまちづくりに参加してみたいという女性の方、連合会の会合に遊びに行ってみませんか。（取材/佐藤）

神田外語大学

1987年文教地区に開学した神田外語大学は、開学からの英米語学科・中国語学科・スペイン語学科・韓国語学科に加え、今年から英語プラス地域言語（インドネシア・タイ・ベトナム・ポルトガル語のうち一つ）を学ぶ「国際言語文化学科」と、英語とコンピューターを使いこなすことを目指す「国際コミュニケーション学科」が新設されました。

単に語学を教えるだけでなく外国の文化にも触れ異文化を理解する能力も育てたいという同校は、従来からの4つの語学科では2年次から言語学研究、コミュニケーション研究、比較文化研究、地域・国際研究コースの中からひとつを選択するユニークなシステムを取り入れており、授業は語学の大学らしく少人数クラスで行なわれています。

「語学の大学だから入学試験の英語の問題はやはり難しいですか？」との質問に対しては、90分の試験時間中30分間をリスニングの時間に当てており、試験問題の水準はかなり高いが、基本的に意地悪な問題は出題していないとのこと。

地域交流に関しては積極的な考えを持っており、大学も地域の一員としてつながりを模索していたが取っ掛かりを見出せないうところ、打瀬中学校の文化祭で行なわれた「5分でアメリカ旅行」のため、神田外語大学に対して中学校のPTAからの協力要請があったそうです。このイベントに関しては「教育ベイトウン」でも報じられましたが、大学側が快く応じてくれて中学校の生徒たちにも大好評でした。

今までは開かれた大学を目指すことが目標だったが、大学という高く見える敷居をできるだけなくすため、今後はセミナーや英語劇などの文化活動を行なって地域住民に来てもらうだけでなく、大学側が地域に出て行くシステムづくりを考えていく事も課題にしたいということです。

それは大学だけの閉じられた世界では発展性に限界があり、いろいろな考えを取り入れるためにも外との係わりは大事に考えているとの事でした。

た。それだけ地域協力に関する学内の理解が強いということでしょう。

大学の授業を地域に開放する試みとしては、「聴講生制度」や単位取得が可能な「科目等履修生」の募集も行なっています。（前期は3月、後期は8月中旬に募集）この制度のメリットは大学の図書館が利用できることです。

学内の施設として羨ましいものの一つは、2000年9月に完成したばかりのメディアプラザです。常時使用できる約50台のパソコンがあるので、学内LANを通してメールやインターネットを自由に使うことができるようになっています。神田外語大学では、入学時に学生全員にアカウント（IDアドレス）が発行されるので、情報交換やレポート提出などにもEメールが活用されています。

「近隣の高校からの進学者は？」と質問したところ、「多数の学生が入学しています。」という返事でした。打瀬小学校から中学を経て近隣の高校から神田外語大学へ、こういう恵まれた環境に育まれた生徒もそのうち出るんじゃないでしょうか！

【金】



地域と教育を考えるフォーラム

街作り研究会では、「地域」と「教育」の接点を考えるミニフォーラムを来る7/20(祝日)開催する。街作り研究会は昨年もベイトウンフォーラムを開催し、ベイトウンの街作りに市民の目で積極的に活動している。今年は街作りがテーマのメインフォーラムを秋に開催を予定しており、今回のフォーラムはいわば教育に限定したミニフォーラムという位置づけ。とは言え、講師に金子郁容先生（慶應義塾塾稚舎校長、小淵内閣の教育改革国民会議委員）を招くなど、地域と教育をテーマに充実した内容のフォーラムを目指す。

日時：7/20（金、祝日）、午後1:00より5:00

場所：グランパティオス公園東の街集會室、参加無料

夏休みに打瀬の自然をしらべよう

エコパークをつくる会では7月に、ベイトウンの自然を調べる2つのイベントを開く。

1. 打瀬の虫を全部しらべよう（7/28）

2. 打瀬の草を全部しらべよう（8/11）

場所と時間はどちらも10番街集會室に朝9:00集合、参加費50円（保険費用）

2つのイベントは地域の子どもと大人が夏休み自由研究を協力してできたら、と考えられた。子どもだけ、大人だけでも参加できる。当日親子以外の小グループを作り、夏休み自由研究にチャレンジする。

コミュニティコア運営懇談会

日時：7月14日（土曜日）午前10時

場所：10番街集會室

市役所側から、生涯学習振興課（これまでの社会教育課）の課長、主幹、係長さらに幕張新都心公民館（仮称）の開設準備にあたっている担当者など6名が参加する予定です。来春、スタートするコアの運営、ソフト作りをめぐる初の話し合いです。

住民側はどなたでも参加できます。公民館や、コア全体、ホールの運営などに関心をお持ちの方、ぜひ、ご参加ください。

『アジアの風2001』モデル募集

今年も、アジアの新進デザイナーによるファッションコンテスト『アジアコレクション2001「幕張大賞」』、その優秀作品および現在活躍中の若手デザイナーの作品によるファッションショー『アジアの風2001』が開催されます。このファッションショーのモデルが以下の要領で一般公募されます。

●開催日 選考会：8月5日（日）、ショー：9月26日（水）

●応募資格 県内在住・在勤・在学の16歳以上、身長170cm以上の女性（除モデル業）

●募集人員 15名

●応募方法 往復はがきに住所、氏名、年齢、身長、電話番号、勤務先（学校名）、返信用宛名を明記し郵送

●締切り 7月25日（水）

●応募先 〒260-8655 千葉市中央区長洲1-9-1 県企業庁幕張新都心整備課

TEL:043-223-3624

中学校のテニスコートを市民で整備

去る6/17（日）、ベイトウンテニスクラブはいつも校庭開放で利用している打瀬中学校のテニスコートをボランティアで整備した。当日は約25名の熱心なテニスクラブメンバーと将来は打瀬中学のテニス部の中核となる（であろう）小学生数名が参加して、朝8:30から夕方まで、2面あるコートの整備とライン全部の張り替えを行った（中学生ソフトテニス部は当日は合宿練習などがあり参加できなかった）。今や千葉市屈指の強力チームとなった打瀬中学校ソフトテニス部、整備されたコートで夏の大会の上位入賞を目指す。



「(街づくりは) 10 年や 20 年で完成させることの方がむしろ問題であるかもしれない。ローマは一日にしてはならずです」

下村 恵保さん

千葉県企画部企画課時代に幕張新都心事業に草案の段階から係わり、千葉県企業庁長、日本コンベンションセンター(幕張メッセ)取締役と、この街を育て上げてきた下村恵保さんが、今年 6 月日本コンベンションセンター相談役を最後に、この街づくりの表舞台から去られた。冒頭のことばは、退職にあたり出版された写真エッセイ集「新都心の詩(うた)」で書かれたものである。

平成 6 年に企業庁長を退職されたとき、ある日刊紙は氏を「役人らしからぬ、役人」と評した。実際のこの人の仕事ぶりは役人らしくない。幕張新都心構想が、東京、横浜の臨海新都心構想に遅れて発表されたとき、三番煎じの千葉のプロジェクトは夢物語と言われ、本気で話を聞く企業などなかったという。並の行政人なら投げ出しても何の責任もなかったであろう逆風のなかを「都市づくりの夢」を説きつづけた。

バブル崩壊後に販売された住宅地区、幕張ベイタウンの事業には更に大きな試練があった。「ここに日本一の住宅を作りたい」と素晴らしいプロポーザルを出していた住宅事業

者が、バブル崩壊後の売れ行きの悪さを懸念し、街の規格を少し落としても価格帯を下げてはという声を上げ始めたのだ。しかし下村さんはそんな声に頑として抵抗し、街作りの水準を落とさせなかった。

下村さんの持つ新都心の夢には、事業者や設計者を動かす力があつたのだろう。テクノガーデン・プロジェクトでは、民間事業者から「理想的な立地条件で都市づくりができる」と言われた。その後、この夢はビジネスガーデンへと受け継がれ、新都心の高層ビル群を驚くほどのスピードで実現させた。そして、住宅地区幕張ベイタウン・プロジェクトでは「住宅で都市をつくる」という新しい試みへと発展していったのだ。幕張ベイタウンを「夢のある街」という人がいるが、住む人に夢を抱かせる街の建設は、ベイタウン住民が入居する遙か以前に生まれ、ひとからひとへと伝わり、増幅してきた。この建築の夢が新しい学校教育の夢を実現し、新しい住文化をつくろうとする街づくりの夢へとつながっている。

そして、下村さんがその夢を最初に語った一人であったことは間違いない。

さて冒頭に引用した言葉である。昨年千葉県企業庁は幕

張ベイタウンの計画実現を 10 年遅らせる決定をした。周囲の空き地が埋められるのが先延ばしされたことになる。バブル時代の計画の破綻と捉えることもできよう。しかし、今後ライフスタイルが変化し、将来的には計画時には想像もつかなかったニーズが発生する可能性も大いにある。空き地を残しておくということは将来の夢を実現させる余地でもあるのだ。10 年や 20 年ではなくもっと長いスパンで街作りを考えては、冒頭の下村さんの言葉はそう言っているようだ。【松村】



ベイタウン お店物語 5 Yoshino (3 番街)

「実家が徳島県の吉野川の近くでした…上流のね。水のきれいな鮎やイワナがいるような所で子ども時代を過ごした思い出から、店の名前を“Yoshino”にしました。横文字にしたのは、街の雰囲気にあわせたものです」とおっしゃるオーナーシェフの佐川宜幸さんは、昭和 37 年生まれ。

店内に流れる Beatles ナンバーに「第二次ブームのファンですか?」と尋ねたところ「中学生の頃、Beatles が好きだったのでランチタイムは Beatles、ディナーの時間はジャズを流しています」。日本三大河川のひとつ、吉野川(四国三郎)の自然の中で Beatles を聞きながら育った佐川さん。なぜベイタウンに出店されたのでしょうか?

「徳島から岡山、鎌倉、銀座、八王子とあちこちで修業し『そろそろ独立』と思っていた時に、たまたまこの辺りを通りかかり、ヨーロッパ風の街並みに驚き、魅せられました。そして平成 8 年 5 月 16 日にオープン。しかし当時は 1～6 番街の周りは野原、飲食店としては厳しい状況でしたが、3 番街の人たち中心に、ミーティング協力や応援をしてくれたので、たいへん励みになりました。こんなこともベイタウンならではのことでですね。感謝しています」

素材のよさにこだわりたい!! と、魚は旬の魚、ステーキ肉は特約店契約をした佐賀牛、ワインは、飲用はもちろん料理に使うものにもこだわり甲州ぶどうの畑と契約しているそうです。「店の特色は、“お客様の目の前で、素材・プロセスを楽しんでもらいながらつくるフランス料理”で、ど



なたにも『素敵な時間をもてた』と寛いでいただきたいと思います。介助犬ももちろん OK です。皆さんに楽しんでいただくために仕事したいです」と語る、佐川さんの瞳と心意気は、ピカピカに磨かれた店内の鉄板と同じく輝いていました。【浜田】

プロシェフの智恵

- 素材というのは、捨てる所がない。魚の骨や皮、野菜クズも、煮込めば栄養豊富なスープやソースになる。
- 素材の選び方 — 野菜の場合、葉ものは多少値が高くても“有機栽培を選ぶこと。栄養と味が全然違う!!
- 肉の場合、必ずよく売れている回転のよい所で買うこと。
- 素材と同じ油で焼く→ステーキやハンバーグを焼く時は、サラダ油でなく牛脂を使って焼く。“あぶら”はそれぞれ融点が違うので、口の中の溶け具合にばらつきがあると、おいしくない…と言うように、料理は小手先の技にとらわれず、素材をいかす目と手がたいせつ。



佐川さんは無類の子ども好き、夜の部の仕込みの忙しい時にも近くの子どもが来れば、いつも厨房を抜け出してこんな調子(写真左上)。

いつも花の絶えない Yoshino の玄関前はベイタウンの CM 撮影の人気スポットのひとつ(写真右下)。
鉄板料理 Yoshino
Tel:043-211-1589

恒例！ 夏休みラジオ体操

期間：7/20～7/31 と 8/21～8/31（日曜日はお休み）6時半より

場所：打瀬小学校、校庭

景品はありませんが、早起きして参加したお子さんを褒めてあげてください。

グリーンサム（カミネッコン）植樹祭

ベイタウングリーンサムは、去る 6/17（日）、18 番街横の緑地予定地で初の植樹祭を行った。グリーンサムは、昨年来エコパークをつくる会の活動の一環として、カミネッコンの愛称で植樹用の苗をバイオブロック工法で育ててきたが、運動の拡大に伴いこの植樹祭を境に、独立したクラブとして活動する。当日はグリーンサムの会員やこれまで自宅ベランダで苗を育ててきた小学生など約 30 名でバイオブロックの育苗ポットを置いた。今後数年に渡って成育の様子を観察する。

アジア経済研究所・夏期公開講座のご案内

発展途上地域の様々な問題を取り上げた「夏期公開講座」を 7 月に開催します。開発援助関係者、海外ビジネス関係者、研究者・学生ほか、一般の皆様も奮ってご参加下さい。お申し込み、詳しい情報は下記をご覧ください。

<http://www.ide.go.jp/Japanese/Lecture/h77180.html>

日本貿易振興会アジア経済研究所

研究支援部 成果普及課 TEL:043-295-9536/FAX:043-299-9726

一職・遊・住の融合した一体的な街づくりー

晴海アイランドトリトンスクエア（東京都中央区）

今年 4 月、東京臨海部に新しいトレンドスポットとして、晴海アイランドトリトンスクエアが誕生しました。

海に開かれた街「晴海」のイメージをギリシャ神話の神「トリトン」に託し、職（オフィス）・遊（文化・商業）・住（都心居住）の 3 つの要素がハーモニーを奏できるようにとネーミングされたもので、公団と市街地再開発組合との共同事業として施行されました。

この開発は、一つの事業を二つの事業主体が共同施行し、しかも「職・遊・住」の複合した一体的な街づくりを行ったという点で全国でも例のない画期的な事業とされています。

開発地区面積は約 10 万㎡、建物延床面積約 60 万㎡もの規模を誇り、東京臨海部におけるリーディングプロジェクトとして、今後引き続き行われる周辺部の開発に大いに貢献していくことが期待されています。



晴海アイランドトリトンスクエアイメージ図
※上記イメージは概略的なもので、実際の状況とは異なります。



賃貸住宅のお問い合わせは
総合募集センター津田沼案内所
TEL：047-478-3711
公団住宅の駐車場のお問い合わせは
日本総合住生活（株）千葉支店

都市公団

■ベイタウンでは、新しいモノがどんどんできるばかりではありません。できてまだ 6 年足らずとはいえ、すでになくなったモノもあります。1 番街のベンチ、2 番街のパン屋、3 番街の弁当屋、レンタルショップ、4 番街のサーフショップ、6 番街の工具店、9 番街の食料品店、16 番街のコンビニ、18 番街の総菜屋、かるがも館、……。あっ、でもほとんど店ですね。ベイタウンでの商売はむずかしいってことでしょうか。

記者：#7-305 茂木俊輔（T&F211-1066/m38032@pp.iij4u.or.jp）

■梅雨になりました。都会に降った雨はアスファルト舗装のせいで、土に染み込まずそのまま河に流されています。今のところベイタウンには空き地が多いですが、それとて街に緑が多いわけではないので恵みの雨が活用されているとはいいがたいところ。いつの日か街の開発が完了し、その空き地にコンクリートやアスファルトのふたがされることを思うと、まだ現状は満足すべき環境なのでしょうか？それともまだまだ住民の手で何かできる点が評価すべきところでしょうか？

金一剛（#3-220/T&F:211-0388/ikkim@xa2.so-net.ne.jp）

■今年に入ってから体調が悪く…今月は「薬疹」でかなりまいってしまい、（今月、編集後記お休みしようかな…）と思ったのですが、こんな時こそ「するべき事があるから、前に進める」「好きな事があるから、頑張れる」をモットーに行動しようと思っています。（←大袈裟!?）皆さん“好きな事・いきがい”は何ですか?? まだ見つからないかたも、この街でそれを見つけてください。

浜田貴代子（公園東の街 /atmark@pop01.odn.ne.jp）

■ここ数年、仕事で三鷹市に行く機会があります。三鷹は市民が行政に参加する「市民プラン 21 会議」という仕組みがあったり、一般の主婦が貧しいアジアの国々のために活動したり、精神障害から立ち直ろうとしている人たちを支援するグループがあったり、一文の得にもならないことに情熱を傾けている人たちがたくさんいます。そういう人たちに会うたびに街の文化度、市民の成熟度を感じます。

佐藤則子（#3-310/T&F:211-0090）

■ごぶさたしています。約半年ぶりの登場です。引退した訳でなく、ちょっとサボっていただけです。そうそう、祝 50 号！ですね。発行当時からすると、発行部数も、支えてくれる人達も格段に多くなりました（最初はたった 3 人からの出発でした）。「10 年は続けよう！」と始めたものの、こうして実際に 50 号を迎えることができることは、やはり想像することはできませんでした。これも、支えてくれた皆さんのおかげです。この場を借りてお礼申し上げます。今後の課題としては、コミュニティ誌と言うからには、“情報発信”だけでなく、読者の方との双方向のやり取りができる場にすることです。

名古屋より、板東司（tbando@dp.u-netsurf.ne.jp）

■ベイタウンニュースを始めた頃、発行部数は 3000 部も印刷すれば発送分も含めておつりが出るくらいでした。今は 4,500 部印刷してもまだ足りないという状態です。街の発展とともに記事の量も飛躍的に増えました。休日には街のあちこちでいろんなイベントが行われ、そのすべてをお伝えするのが難しくなっています。たまに記事にできなかったイベントの主催者から「どうして載せてくれなかったの？」とお叱りを受けることもあります。日程やスペースの関係で記事にする機動性がなかっただけで、決して「あいつのイベントは気に入らないから」と、編集に手心を加えているわけではありません（まさかね）。どうぞ、今後も暖かい目でご支援をお願いします。

松村守康（#10-612/T&F:211-6853/m-matz@mxq.mesh.ne.jp）

祝セントラルパーク イースト オープン！

ベイタウンニュースはみなさんの新聞です
ご入居おめでとうございます。私たちは幕張ベイタウンニュース。皆さんと同じベイタウンに住む住民が手作りで発行する新聞です。幕張ベイタウンの全戸に無料で配布しています。財源は幕張ベイタウンの街作りと、ベイタウンニュース発行の主旨に賛同していただける周辺の企業より、毎月広告費という形でご協力いただいています。ベイタウンニュースは新聞を作る編集部と、配布を行う「ニュースサポーター」の 2 つのグループの力で、発行・配布されています。ニュースサポーターはどなたでも参加できます。新聞の発行される毎月第 1 土曜日の午前中、情報交換をしながら折り込みや配布をしています。用のあるときや、気が乗らないときはサボるのも結構。新しい街で、仲間を見つけに来ませんか。お問い合わせは 10 番街松村（TEL:211-6853/E-Mail:m-matz@mxq.mesh.ne.jp）、または上記編集後記に記載の各編集部員の連絡先まで。